

教師人生を支える10の心得 身銭を切って学び続ける覚悟

連載③

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

一寸先は闇。

教師をしていれば、想定外の出来事に何度も出会うだろう。

闇を照らす灯りの一つは、自分が学び続けることで得られる。

教師人生を支える学び

教師人生を支える10の心得の三つめは、

「身銭を切って学び続ける覚悟」である。

「身銭を切る」は辞書にも載っている。

『大辞林』では、「(公用などで自分が負担しなくてもよい経費を) 自分自身の金で支払う。自腹を切る。」とある。

学校内や教育委員会主催の研修会や講座は、たいていが無料である。日々の教育実践を向上していくためには、教師の研修が必須だからだろう。

ただ、30数年前と比べると、無料だけでなく、必ず参加しなければいけない研修会や講座が増えている。

それゆえ、休みの日にまで、自分の時間とお金を使って、外に学び行く教師は減ってきている。

てきている。

しかし、無料の学びで得るものは、たいして少ない。(もちろん、学ぶ側の構え次第で、学び得るものの量は大きく変わる。)

なぜかといえば、今の自分がどうしても学びたいことではないからだ。

一方、お金を払って参加する講座やセミナーは、自分の目的意識に合ったものを選んで参加する。

すると、自分のかけた時間とお金に見合ったものを得ようという人間心理も働き、自分に合った多くのものを学び、成長することができるのである。

ただし、身銭を切って学び続けるためには、覚悟が必要になる。

学び続けるための覚悟

「覚悟」を『日本国語大辞典』で調べると、

五通りの意味が載っている。

①迷いを去り、真実の道理をさとること。
②悟ること。気がつくこと。

③あらかじめ心構えすること。心の用意。
④あきらめること。観念すること。

⑤記憶すること。おぼえること。また、修得すること。

通常使っている「覚悟」は、③の意味となるだろう。

教師として人間だから、欲しい物もあれば、行きたい所もあるだろう。また、結婚すれば、家族を養ったり、家のローンなどで、お金が必要になったりしてくる。

あらかじめの心構えがなければ、諸々の理由で身銭を切ることが難しくなってくる。周りの状況に流されてしまうのである。

最近、講座やセミナーが増えたので、都市圏に近ければ、安い交通費で安い参加費のものに参加することはできる。

でもそれは、今の自分が本当に求めているものなのだろうか。

本当に今学びたいものがあれば、例えば、交通費が数万もかかる講座やセミナーでも参加する覚悟があるか、ということである。

身銭を切って学び続けるには、そうとうな覚悟がいるのだ。

教師人生を支える学び

身銭を切って学び続けてきたことが、教師人生を支えてくれる。

私は小学校の臨時講師をしている。今は講師不足なので、仕事が切れずにある。しかし、数十年前は病休の一、二か月の仕事しかなかったりする。

どこの学年を担当するか、何を教えるかは、事前には分からない。

ある年の11月下旬、講師依頼の電話があった。六年担任である。前担任は、病休で3学期の終業式まで休まれるそうである。

学級は大変に荒れた状態。悪戦苦闘の日々を過ごした。毎日のように家庭訪問し、くたくたになって家に帰った。

日々の授業の教材研究をじっくりする余裕も時間もない。家に帰れば、体と心の疲れをとることしかできない。

でも、こんなときにこそ、自分がこれまで学んだ知識や教育技術が、私を支えてくれた。

一九九八年十一月、元中学校教師の三上満氏は、講演の中で、語った。

「子どもは、白黒まだらの発展途上人。」

「良さが伸びると、一緒に悪さも伸びる。」

「自分を見つめるようになれば、暗い表情になる。」

「元気になれば、イタズラをする。」

発展途上の子どもたちを相手にするのだから、うまくいかない時があっても、当たり前だと思えた。

子どもの好きな三つのものも教えていたのだ。

①めあてをもつて、がんばること。

②それができた時の喜び。

③できたことを「よくやったね」と言ってもらうこと。

二〇〇〇年八月、福井セミナーで、心に残った言葉は以下の通りだ。

「子どもは、裏側に家庭事情をかかえている。叱るだけでは、その子は癒されない。

癒されない子は、幸せな子をターゲットにする。」（館野健三氏）

「一番大事なのは、列指名。常にかかわる。しかし、深入りしない。」（吉田高志氏）

二〇〇五年二月、淡路島。

「苦手な子は前の方に来て、跳びなさい。」

「先生の前で跳ぶ子は、上手になります。」

並ばせない状態でのなわとび指導は、ダメだと伴一孝氏は言う。

放っておくと、前の方に、なわとびの得意な子たちが集まるからだ。

苦手な子が前に集まって跳ぶようになった段階で、伴先生はその子達に聞こえるように言い続ける。

「それでいいんだ。それでいいんだ。」

「いいひっかかり方だ。」

「休むな。休むな。ひっかかってもいいんだ。今は、貯金しているんだから。」

得意な子が教師の近くに来ていて、苦手な子は後ろの方にいる、こういう状態を教師は許してはいけない。

今の学びが将来の自分を救う

身銭を切って学び続けることは、自分の中に貯金している（自分に投資している）

ともいえるだろう。今の学びが、将来の自分を支えてくれるときが来るのである。未来のあなたを今のあなたが救うのだ。